

地産地消おいしい給食推進事業

事業の概要

- ◆市内3カ所の学校給食センターを統括し、学校給食に関する企画を立案する「おいしい給食推進室」を新設して、生産者の顔が見える安全・安心な地場産物の使用割合を高める取り組みを推進します。
- ◆地産地消コーディネーターとの連携により、市内産野菜を中心とした地場産物の計画的かつ安定的な学校給食への供給システムを構築します。
- ◆生産者と子どもたちとの交流を図る「ふれあい給食会」の開催など、子どもたちの市内産野菜に対する理解と愛着を育み、食育指導の充実を図ります。
- ◆学校給食を通じた市内産野菜の情報提供や、保護者参加の「生産現場の見学会」等を通して、市民への市内産野菜のPRや理解促進を図ります。

予算額

地産地消おいしい給食推進事業 612万円

事業の背景

- ◆袋井市では、教育の基本理念である「心ゆたかな人づくり」に繋がる食育を地産地消を軸に推進している。
- ◆本市の農業生産を安定的に持続するために、担い手の育成、農地の有効活用、販路拡大が求められている。
- ◆全国のモデルとなる最新の施設である中部学校給食センターの稼働に伴い、地場産野菜を積極的に使用できるようになった。(平成25年9月から)
- ◆学校給食地産地消コーディネート委託業務により、市内産野菜を計画的かつ安定的に学校給食に供給できるシステムの構築の取り組みをスタートした。(平成25年度から)

事業の数値目標

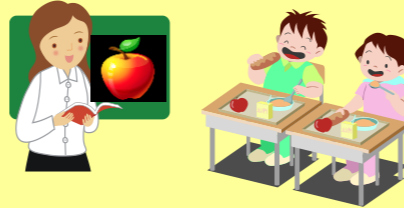
市内産野菜の使用について

◆主要10品目の重量ベース	H24 13.8%	H25見込み 21.4%	H26目標 23%以上
◆使用食材数ベース	H24 10.4%	H25見込み 11.0%	H26目標 12%以上

事業の効果

- ◆新鮮で、安全・安心な市内産野菜を学校給食に安定的に供給することができる。
- ◆子どもたちの市内産野菜への理解と愛着が深まり、食育がさらに推進される。
- ◆学校給食への供給システム構築により、市内生産者の意欲向上につながる。
- ◆市内産野菜に対する市民の理解と需要の広がり、消費の拡大につながる。

食育指導の充実



幼稚園から
中学校まで
12年間の給食を通じた食育

ふれあい給食会



市内産野菜のPR 理解促進

学校給食を通して保護者に
・市内産野菜の情報提供
・市内産野菜を使った
献立の提案



保護者も参加した
市内生産現場の見学会



【新設】
おいしい給食推進室
安全・安心で
おいしい給食の提供

学校給食センター
中部
学校給食センター
袋井
学校給食センター
浅羽

袋井市標準献立(年間の献立の予定)

月ごとの野菜の使用見込み量や
生産見込みに関する情報提供

学校給食地産地消
コーディネーター

情報提供 作付け依頼 栽培指導

市内産野菜の
生産者・生産者グループ

生産者

生産者グループ



市内産野菜の流れ

納入業者

市場

農協

市内集積所

